

8223036 栗山淳 6/26 担当講師：飯田先生，森川先生

概要

理工学の学びは社会で困っていることである少子化社会やエネルギー問題，社会インフラ老朽化，食糧不足などの社会的課題を解決し，よりよい社会を作り，貢献するために必要である。企業が今後不足すると予想する専門分野は材料系のものが多いため，今学んでいることは将来必要とされやすい。材料学はものづくりの根本であり，この分野を大学においてしっかりと学ぶことは化学と技術で新たな価値を創出，新しいものを作り上げるときに必要不可欠となる材料の視点を得ることができる。多様な視点の考え方などは将来必要とされてくる。エンジニアは日本の全人口の約 1.0%しかいない。エンジニアは専門性が高い職業であるので専門を学んだ人にしかねない。ものづくりの流れを理解することは将来仕事を決めるときに仕事のアンマッチを防ぐことにつながる。自分のキャリアを形成するためには主体的に行動し，自分自身を成長させていく必要がある。また，データを定量的に話せるようなコミュニケーション能力を磨いていく必要がある。このようなことを大学でしっかりと鍛えることが将来社会に求められる人材になることができる。

感想

今回の講義では実際にエンジニア経験者に大学や学問の価値，キャリアプランについて話してもらいました。今回の講義で特に印象に残った部分の話はエンジニアの数は自分が思っているよりも少ないということでした。エンジニアは専門性が高く，その職業に就くためには専門的な学びが必要であるからその数が限られていることに納得しました。また，材料学はものづくりの根本であることも印象に残りました。この分野を大学で学ぶことによって将来の技術革新や新しい製品の開発に大きな影響を与えることは興味深かったです。将来社会に求められる人材になるためにデータを定量的に話せるようなコミュニケーション能力を鍛えることの重要性を再認識しました。私自身はコミュニケーションが苦手な自覚があるのでこの能力を鍛える意義を再認識できたのは良かったです。